

一般質問通告書

【第75回定例会】

多可町議会議長 清水俊博 様
 多可町議会議員 大山由郎 印

受 領 日	番号
平成29年 2 月 20 日 午前・午後 8 時 30 分	/

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 健康対策を強化せよ	町長
別紙にて	
2.	
3.	

質 問 の 内 容

①厚生労働省によれば、国の医療費は十数年連続で過去最高を更新しているという。これを抑えるため、健康管理を促すねらいで、定期検診を受けるなど健康管理に努めた人には、医療費の自己負担を3割～2割に引き下げようという若手国会議員の提言、「健康ゴールド免許」が話題になっている。簡潔に言えば「健康管理をした人と、健康管理ができずに生活習慣病になった人が同じ自己負担は不平等だ」ということだ。しかし、健康に気を使う余裕がない人もあり余裕のある人もある。健康管理を行う環境は人それぞれだ、「努力した人の自己負担を減らす。努力できない人の自己負担は減らさない」など、病気になってしまったという「結果で差をつけるべきではない」と言う意見もあるが、これについて多可町の見解は。

②国民健康保険は、現在市町村が運営し、2018年度に市町村から都道府県に運営主体が移る。多くの自治体が国保料（税）額を抑えるために一般会計から繰り入れをしている。一方、健康保険を運営する自治体は、医療費を削減するため「健康マイレージ」などの取り組みを始めている自治体が増えている。「健康マイレージ」とは、各自治体を中心となり、健康を維持するための目標達成や健康管理・健康促進のためのイベントや講座に参加するとポイントがたまり、ポイント数によって様々な特典が付くというものだ。住民が健康であれば自治体は医療費への負担が減り、それが財政健全化につながる。また住民にとっても、自分の健康が維持できて「健康マイレージ」をもらえれば一石二鳥だ。例えば、静岡県の「ふじのくに健康マイレージ」は、健康改善目標の実践や検診受診などでポイントをため、一定以上のポイントがたまると、地域の協賛店で割引などが受けられる。千葉県市川市の「いちかわ健康マイレージ」はスマホなどを使って、運動や食事の目標管理を行う。検診受診や健康イベントの参加などでもポイントがたまり、ためたポイントに応じて、歩数計や血圧計などと交換できる。

この取り組みは住民全員に強要しない自由参加であることが住民にも歓迎される。これらの取り組みを参考に住民の健康への意識の向上を目指すべきだ。

③地域や社会・経済状況の違いによる集団間の健康状態の差を「健康格差」と言う。65歳以上の高齢者を対象に病気と、所得階層との関係を調査した

結果、多くの病気を抱えていると答えた人が低所得層で多く、うつなどの精神疾患では高所得者の3倍以上というデータもある。雇用形態でも、糖尿病患者の調査では、悪化して網膜症の合併症を起こしている人は、非正規雇用者で正規雇用者の1・5倍に上っているという。このように低所得者、非正規雇用者、受けた教育年数など、社会・経済的な階層が低い集団ほど健康状態が悪いことは国内外のデータで明らかだ。近年我が国は「命の平等が」崩れ「健康格差社会」に突入している。「健康格差」を是正するための多可町の取り組みは。